

7月31日(火)

準備をする

聖書朗読 ヨハネ 21:15~19

彼らが食事をすませたとき、イエスはシモン・ペテロに言われた。

ヨハネ 21:15

このとても重要な教えを、イエス様はどのように行おうとしていたか気づきましたか？ コミュニケーション理論的には、重要な話をするときに「準備をする」こと、もしくはそれが正しいタイミングで行われ、相手が聞く用意ができていないのかを必ず確かめることが正しいとされています。聖書では、『彼らが朝食をすませたとき』と書いています。このときの弟子たちはリフレッシュし、おなかも十分に満たされ、イエス様の言葉に耳を傾ける準備はできていました。これから起こるであろうことすべてに思いを巡らせ、みことばを神学的に理解できているはずがありませんでした。しかし、19章で、イエス様は自身にどのような死が待っているのかを知っておられ、弟子たちにイエス様を愛することで安心し、逆境の中イエス様に従う準備をするよう望んでおられると言っています。

私たちは皆、身勝手な耳を持っています。耳障りの良い言葉と、悪い言葉がありますが、私たちのそれらの言葉に対する反応は、誰がそれを言っているかによって変わります。もし信頼して尊敬している人の言葉であれば、それを信じ、従おうとします。ですから、愛するイエス様がお話になられる前に、私たちは聞く用意ができていないかどうか考えましょう。休憩が必要かもしれません、何か食べたほうがよいかもしれません。それが終わったらイエス様のお話をしっかりと聞き、従いましょう！

讃美歌 第二編 80

祈り 親愛なる主。心からあなた様のみ言葉を聞きたいと思っています。そしてそれにこたえる準備をしたいと思っています。あなた様のみことばを受け入れられるよう私たちの心を、体を整えられるようお助けください。

イエス様の御名によって。アーメン。

スーザン・K・ギボニー
カリフォルニア州 マリブ

8月1日(水)

神の永遠のご計画

聖書朗読 使徒の働き 2:14~28

みこころの奥義を私たちに知らせてくださいました。それは、この方によって神があらかじめお立てになったご計画によることであり、
エペソ 1:9

群衆は、あの五旬節の日の朝に何が起きたのか全くわかりませんでした。群衆たちは激しい風が吹いてくるような響きを聞き、炎のような分かれた舌が12弟子の頭の上を表れているのを見ました。そして、弟子たちがさまざまな言語で神をほめたたえるのを聞きました。それらの言葉を理解できなかった地元のユダヤ人たちは、弟子たちが酔っ払って自分たちをからかっているのかと思ったのです。

ペテロは立って、あなたがたが見て聞いたものは預言者ヨエルによって語られたことである(2:16)と人々に説明をしました。神はこれらのことを何百年も前から計画されておられました。ペテロはさらに、イエス様を十字架にかけのためにローマに引き渡した人々は、神が「定めた計画」を全うしているのだとも言いました(使徒の働き 2:28)。イエス様の復活ですら神の永遠のご計画の一部だったのです。ダビデはこのことを1000年も前に記しました。さらに、五旬節の日の日曜の集いの始まりさえも神のご計画の一部でした。

あなたと私がクリスチャンになった時、私たちは神の教会のメンバーの一員となりました。そして、それは教会を通して神の知恵を知るための神の永遠のご計画だったのです(エペソ 3:10~11)。ですからあなたは神のご計画の一部なのです。

讃美歌 493

祈り ご在天のお父様。あなた様の御子においてたてられた永遠のご計画を成就するために私たちをお使いくださっていることに感謝いたします。どうかあなた様の計り知れない知恵を皆に知らせるために必要な知恵を私にお与えください。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

リチャード・N・アディ
オレゴン州 グレシャム

8月2日 (木)

嘘つきから学ぶこと

聖書朗読 使徒の働き 5:1~11

心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。 マタイ 5:8

一言も発することなく人は嘘をつくことができるでしょうか？

聖書を読む限りでは、アナニアとサツピラは、彼らが使徒たちの足元に置いたお金が土地を売った代金のすべてであるとはあえて言っていません。しかし人々が思うには十分でした。それは、プライドと貪欲な心に表れた偽りと嘘の罪でした。二人は寛大さを周りの人々に見せつけた上に、さらに手元にお金を残しておきたかったのです。

今の時代、与えることができる一部を与え、さも全てを与えたかのようにふるまうことは罪なことなのでしょうか？ 罪ではないでしょう。しかし主はあなたの持っているものを全て知っておられ、あなたが与えようとしているときのあなたの心を知っておられることを忘れないでください。誰にも気づかれていない企みは「人知れぬ罪」となりますが、神はすべてことを知っておられるので、真の意味で隠れた罪というのは存在しません。

アナニアとサツピラのもとに下った罰がどれだけ早く、厳しいものであったか聖書を見ればわかります。この出来事から、私たちの愛あふれる恵み深いお父様のもう一つの姿を見ることができます。お父様は不誠実に対して厳しく、恐ろしいお方です。お父様は偽善を嫌い、正直で、惜しみなく、誠実であることが教会の一員である証であることを人々に知って欲しかったのです。この教えは私たちの心に突き刺さります。もし神が教会にいるすべての嘘つきを死に至らせるのなら、どれだけ多くのお葬式をやらなければならないことでしょうか。私たちはお金への愛やプライド、不誠実さを正当化しがちです。しかし、神は私たちのそんな心を清めることができるお方です。

讃美歌 452

祈り 親愛なるお父様。捧げる量を多めに申告することなく、財産を少なめに申告することがありませんように。あなた様が私たちにお与えくださったすべてのものに誠実で寛大でありますように。
イエス様の御名によって。アーメン。

ヘレン・M・ヤング 1958

8月3日 (金)

悩んではいけない

聖書朗読 使徒の働き 15:6~19

愛されている子どもらしく、神にならう者となりなさい。また、愛のうちに歩みなさい。キリストもあなたがたを愛して、私たちのために、ご自身を神へのささげ物、また供え物とし、香ばしいかおりをおささげになりました。 エペソ 5:1~2

私たちの教会では、ホームレスの人たちをキリストの愛が実行にうつされていることが目に見える場所へと招く活動をしている人々をサポートしています。この神の働きの結果として、ホームレスの人々の多くがキリストに身をゆだねるようになります。キリストにある彼らの兄弟、姉妹として、彼らの信仰を強めるために私たちには何ができるでしょうか？

パウロとバルナバが説教をしていた教会にいた異邦人たちにとって、キリストのうちに生きるということは、新たな世界の幕開けでした。教会の考えは今までとは全く異なり、キリストにあって新しい人生を生きることは、慣れない街を旅しているようなものでした。

イスラエルでは、異邦人たちがモーセの律法に従えば、改宗者たちがより弟子たちのようになると信じている弟子たちがいました。しかし、ヤコブは言いました。『私の判断では、神に立ち返る異邦人を悩ませてはいけません。』（使徒の働き15:19）

御国への行進の仲間として人々を招くとき、私たちは自分の好みでその人々を判断してはいけません。彼らが私たちのようにはなく、キリストのようになるために手を差し伸べることに心を留めましょう。

讃美歌 536

祈り 親愛なる主。周りを手助けしようとする私たちに協力してください。彼らにあなた様の愛と慰めを見せることができますように。彼らが御国に入るとき、あなた様が望まれた姿になれるようにしてください。
イエス様の御名によって。アーメン。

ジーナ・D・ゴードン
南カリフォルニア州 マレル

8月4日(土)

続けることを続ける

聖書朗読 ローマ 15:1~6

忍耐と励ましの神が、あなたがたを、キリスト・イエスにふさわしく、互いに同じ思いを持つようにしてくださいますように。 ローマ 15:5

忍耐とは、困難な課題をやり続け、完成させる能力のことをいいます。忍耐と登山やオリンピックの10種類競技のような極限スポーツを結びつける人もいます。今日の学びでは、パウロは忍耐をクリスチャンライフと結びつけています。

クリスチャンでいることは、生きる最善の方法ですが、それは必ずしもやさしいことではありません。人生は過酷です。そんな時は、クリスチャンでいることに忍耐を要する時があります。

忍耐は霊的な持久力です。それは、人生で何が起きようと、頑張り続ける能力のことです。たとえ物事が悪いほうへ進んでいっていても、辛抱強く、痛みや悲しみや困難の中にあっても信仰を強く持つことです。ですから、私たちは続けることを続けることができるよう忍耐をお与えくださるよう神に祈ります。

パウロが使った『忍耐』のもとの言葉は「そのままにいること」または「その場所にとどまる」ことです。それは、過酷で好ましくない環境で育っている植物で例えることができます。ひび割れた土地や岩の合間で成長している植物のイメージは、クリスチャン生活の良いたとえです。一生懸命光に向かって成長している植物のように、私たちは御国に向かって成長し続けましょう。

讃美歌 291

祈り 主よ。私たちに忍耐をお与えください。歩み続け、そしてもっとイエス様のように成長できるようお助けください。
イエス様の御名によって。アーメン。

フィリップ・イッチマン
南カリフォルニア州 アーモ

8月5日(日)

死が二人を分かたまで—そのあとも！

聖書朗読 I コリント 1:4-9

あなたの王国は、永遠にわたる王国。
あなたの統治は、代々限りなく続きます。 詩篇 145:13

牧師が若い花嫁に、この若い男性を生涯の夫としますかと尋ねました。花嫁は「はい」と答えました。そして若い男性もまた同じ約束を花嫁にしました。この誓いは結婚式の中で最も大切なところです。

結婚の誓いは一度きりの誓いではなく、日々示され、日々新たにされるものです。

同じく神への誓いは、キリストのうちに生涯を通して成長することです。そして私たちの神への誓いは一方的なものではありません。神が私たちに誠実であると約束してくださっているのです、私たちも神に誠実であると誓います。神が私たちに約束してくださっているのです、私たちも約束します！

コリント人への手紙第一では、神の約束は今後についてだけではなくと言っています。神は今、私たちに誠実でおられます！神は私たちに『最後まで堅く』保ってください(9章)。神は私たちを心配してくださり、クリスチャンとして歩む私たちを支えてくださいます。神は単に正しい道が記された地図を私たちに与えるのではなく、日々ガイドとして私たちを導いてくださっています！

讃美歌 第二編 191

祈り 親愛なる主よ。あなた様の私たちへの愛と思いやりを賛美いたします。今この時あなた様の存在と導きを感じることができるよう。
イエス様の御名によって。アーメン。

ケヴィン・B・レイチェル
テネシー州 ナッシュビル